



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

CD3モノクローナル抗体(PS1)(ヒストステイナー用)

(動物種：マウス)

包装： 60テスト(12mL) Code：713241

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL.03(3248)2208 FAX.03(3248)2243

■本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。

■特異性および抗原分布：ヒト CD3 の ϵ 鎖と特異的に反応する。T細胞の細胞膜と一部細胞質に反応し、T細胞マーカーとして用いられる。CD3は5種類の鎖(γ 、 δ 、 ϵ 、 ζ 、 η)があり、T細胞抗原受容体(T CELL receptor)に結合している。

■クローン名：PS1

■抗体のサブクラス：IgG2a

■免疫原：リコンビナントヒト CD3 ϵ 鎖の細胞外ドメイン。

■製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・CD3モノクローナル抗体(PS1)(動物種：マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のヒトT細胞の染色。

3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)としてヒストファイン 抗原賦活化液 pH9 (10倍濃縮)(Code:415211)またはヒストファイン 抗原賦活化液 pH9 (調製済)(Code:415201)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面参照)。

4. 使用方法

1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

6. 貯法

2-8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	CD3モノクローナル抗体(PS1)
試薬略称(10文字)	CD3-MM
バーコード	CD3-MM
時間(分)	30

8. 主要文献

1)Steward, M., et al: Histopathology 30: 16-22, 1997

■研究用としてのみ使用すること。

■切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4 μ m厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化): オートクレーブ処理
 - ①抗原賦活化液pH9を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
 - ②バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
 - ③120℃、20分間オートクレーブ処理する。
 - ④圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
 - ⑤バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※オートクレーブ処理後は、バットおよび抗原賦活化液pH9等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - ⑥スライドを抗原賦活化液pH9から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

・抗原賦活化液pH9の作り方

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">• Code : 415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。• Code : 415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。 |
|---|